

ペプチサル ユーザーの声



山崎 和夫 さん

北海道妹背牛町出身
札幌医療福祉専門学校卒業
北星記念病院勤務
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

様々な疾患をもつ患者様のお口の問題を解決し、豊かな生活が送れる様に口腔ケアに力を入れています。

また、地域の仲間とともに生活を支えるケアの実践を広める活動しております
(北見摂食嚥下ケア研究会)。

当院は脳神経外科と循環器内科を中心とした血管疾患の専門病院で、昨年十一月に新築移転し「北星記念病院」となりました。また、当院には神経内科、口腔外科などの複数の診療科があり様々な疾患の治療にあたっています。そんな中で、お口に問題を抱えた患者さんの口腔ケアにペプチサルシリーズ3製品を活用しています。その使用場面は多様で、**脳血管疾患の急性期・回復期の食べられるお口づくりの促進、維持期の肺炎予防、口腔疾患・循環器疾患の口腔乾燥に対する口腔湿潤などがあげられます。**口腔汚染・口腔乾燥は様々な疾患で出現し、対応には看護師・言語聴覚士・歯科衛生士だけでなく理学療法士・作業療法士・介護職員など**多職種**の協働が必要です。

院内では、**口腔ケアの方法・口腔ケア用品の使用法などの実習を含めた研修**を実施しています。繰り返し実施する事で少しずつ口腔ケアに対する理解が深まり、今では多くの患者さんがペプチサルの口腔ケア用品を使用し、口腔ケアに役立てています。

様々な場面でペプチサルを活用し、お口の問題を解決

北星記念病院 リハビリテーション科

言語聴覚士 山崎和夫さん（北海道北見市）

ペプチサルの活用法

【抗血栓薬使用による出血】

脳梗塞の急性期では、抗血栓薬使用による出血傾向が口腔ケアの場面で問題になることもしばしばあります。当院では、ウルトラソフト歯ブラシとトウスペーストを使用し、早期から積極的な口腔ケアを実施しています。出血傾向のある箇所は少し多めにトウスペーストを塗布し、保護しながら実施すると口腔ケアによる出血の予防になります。

【水分制限による口渇】

心不全などの循環器疾患では水分制限により日常的に口渇の苦痛を訴える患者さんがおられます。そんな患者さんにはマウスウオッシュを活用し、運動前のうがい、スプレーボトルを使用しての塗布をおこなっています。また夜間の対策としてベッドサイドにスプレーボトルを置いて対応するなど工夫をしています。

高齢化が進む現代では、疾患や服薬による口腔の問題が「食べる」に留まらず、「コミュニケーション」や「運動」にも影響を与える事が多々あります。今後も生活を支える口腔ケアの促進に地域で取り組んでいきたいと考えています。

(山崎和夫さん談)

症状によってペプチサル3製品を使い分けていただいていますか？